

朗読版 児童文学への招待

佐藤遊歩

夢、希望、正義、真理、冒険、初恋そして挫折。

子供たちの豊かな情感と、旺盛な知識欲や好奇心を触発し、育んできた「児童文学」。それは決して子供たちだけの、子供の時分だけの文学ではなく、大人に成長していくための文学でもありました。また児童文学は、子供の直やかな心に戻りたいと願う、大人たちのための文学にも成り得たのです。

詩人の北原白秋はこう述べています。

「子供に還ることで。子供に還らなければ、何一つ、このかたじけない大自然のいのちの流れを、ほんとうにわかる筈はありません。“子供は大人の父だ”と申す事も、この心を正しく言つたものに他なりません」

子供と大人の世代をつなぐ、懸け橋のような「児童文学」。わが国の文学者はこの児童文学の分野に、時代を超えて意欲的な作品を多数送り続けて来ました。

この朗読版「児童文学名作選」は、明治、大正、昭和の日本の近代文学を創つた代表的な作家による作品を朗読でお贈りするものです。朗読でこそ表現できる世界、それが「児童文学」に展開されます。